

## 新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

### 不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

#### 【取組1】(A中学校)

第2学年では仲間づくりができるよう、意図的・計画的に学校行事に取り組んでいる。2学期には学習発表会と合唱コンクールを実施した。各学級の取組として、実行委員、合唱リーダー、学級委員、パートリーダーを中心に、生徒主体で練習を計画し、合唱練習に取り組んだ。各学級が切磋琢磨しながらも、学級の団結を深めることができた。また、学年全体の一体感も深められるよう、1日の練習時間のうち1時間程度は、実行委員などが中心となって学年での合唱の練習に取り組んだ。廊下には学校行事の際の写真を掲示している。掲示物は3年間かけて完成するように工夫されている。



#### 【取組2】(A中学校)

第2学年では放課後に10分~15分程度で「ラフトーク」を行っている。この試みは、生徒が主体的に集団討論に参加する力を身に付けることを目的としている。

実施の方法は次のとおりである。①4人1組のグループを編成する。②話し合うテーマを提示する。③司会、タイムキーパー、発表者を決める。(全員が何らかの役割になるように留意する。)④10分程度話し合いをする。⑤学級で各グループの代表が発表する。テーマは「あなたが無人島に持っていくものを3つ挙げ、その理由も答えてみよう。」等、誰もが意見を出しやすいものとした。自分の意見を批判や否定されない安心した環境での「ラフトーク」では、互いを尊重して話し合う生徒の姿が見られた。

#### 【取組3】(B中学校)

保健体育の授業では、事前に授業時数の予定を生徒にプリントで配布している。また、体育館のホワイトボードには、スケジュールと共に評価規準が観点別に提示してある。終了した活動には線を引いて、進捗状況を分かるように配慮している。生徒は、授業の「ねらい」や評価の観点を理解し、学習の見通しをもつことで不安なく安心して授業に取り組むことができている。

#### 【取組4】(C中学校)

不登校の未然防止のために、小・中学校における不登校者数等の現状を把握し、次に、東京都から提供されている研修キット【不登校の未然防止】を活用して研修を行った。

その際、不登校の未然防止の具体例として環境の整備を挙げた。また、他校で作成した配布物や教材の管理、家庭訪問をする目安を示したガイドラインを共有した。

## 多様な学びの場を確保する取組

### 〔「早期支援」及び「長期化への対応」の取組〕の推進

#### 支援会議（D中学校）

週1回開催している支援会議には不登校対応巡回教員、SC、特別支援教室専門員も参加している。不登校に関する支援と特別支援教育の観点から、生徒の実態を丁寧にアセスメントでき、生徒の状況に応じた支援策の検討ができています。また、関係機関と連携した情報共有が行われている。

#### アウトリーチによる支援（E中学校）

不登校生徒への配布物を届けるために不登校対応巡回教員が家庭訪問を実施している。担任と連携し、届ける配布物を確認し、訪問内容について相談している。家庭訪問では保護者及び生徒本人と会って話をしている。面会ができない場合でも、「給食だより」を投函して訪問したことが分かるように工夫している。

#### 校内別室における支援（E中学校）

校内別室は普通教室がある棟とは別の棟にあり、他の生徒の視線を気にせず通うことができる。また、同じ階にSCルーム、保健室、特別支援教室があることで、様々な支援を受けることができる。

事前に校内別室に通う曜日や時間を話し合って大まかに決めている。これは生活のリズムが整うようにするための工夫であり、生徒にこの時間に来なければならないというプレッシャーは与えないよう配慮している。

教科担当者が入室し授業の補足説明を行ったり、生徒が出された課題に取り組んだりしている。



#### デジタル機器を活用した支援（A中学校）

登校が難しい生徒は、家庭でデジタル教材に取り組んでいる。また、校内別室に登校している生徒が授業参加ができるよう、授業支援ツールを活用している。人間関係の構築が難しい生徒には、担任だけでなく学年の教員が協力し、毎日オンラインで話をしている。



#### 関係機関との連携（C中学校）

不登校の様々な要因に対処するため、SC、SSW、教育支援センター、児童相談所、区の「くらしまるごと相談窓口」などと連携し、生徒だけでなく家庭の問題も含めて解決を図っている。その結果、「どこにもつながっていない生徒」は0人になった。

## 成果

家庭訪問の成果として、数か月姿を見ることのできた生徒が、登校することができるようになった。また、保護者の悩みを聞くことができ、他の関係機関につなぐことができた。

## 課題

生徒の状況に応じた支援方法を不登校対応巡回教員だけではなく、教職員や関係機関と連携しながら一層工夫する必要がある。